

受講番号 19092 学校名 尾川中学校 氏名 西原 和代

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 14名
科目名 3年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 NEW HORIZON English Course 3 (東京書籍)

クラスの様子・特徴

男子9名、女子5名のクラスである。全体的としては活発である。特にALTによるゲームを楽しみにしている。アンケートによると4技能の中では読めるようになりたいという生徒が最も多い。学習の成果が思うように出ずあきらめがちになる生徒も見られる。

問題の確定

英文を読む時やリスニングの時に一語一語訳しながら理解するために時間がかかり途中であきらめてしまう生徒が多い。

予備調査

A 授業の観察

クラスは全体的にまじめに取り組んでいるが、思うように成果が上がらないことから英語に対する学習をあきらめかけている生徒がいる。英文の音読はできても綴れない生徒が見受けられる。新出文法や単語の定着に時間がかかる。

B 生徒による授業評価

授業がパターン化してしまったところがあり、マンネリ化からやる気をなくしてしまった生徒もいた。アンケートによると生徒は心底できるようになりたいと願っていた。しかしどう勉強したらいいのかわかっている生徒が多いことが分かった。

C 学力データ

CRTでは「聞くこと」「話すこと」が若干全国比より下回るが、「読むこと」「書くこと」は全国比。単語を書くことが苦手な生徒が多く色々なところに影響している。

リサーチ・クエスチョン

まとめた英文が読めるようになるためにはどのような指導が効果的か。

仮説・実践・検証

仮説1

⇒ 英文和訳をやめ、先に訳を渡して音読練習量を増やすことや音読筆写をしていけば、英文にも慣れ、抵抗も少なくなるのではないかな。

実践1

⇒ 先に和訳を渡して内容を理解させてから英文を聞き、音読練習を行った。和訳に要する時間が省略できたので時間が今までより確保できた。ALTもしくは英語教員による読みのチェックをページごとに行い、読みのテストも実施した。音読の後はCDを聞きながら本文の空欄を埋める課題に取り組み、英文の定着を図った。そして、新しい文法の学習の際には音読筆写を行い、文を聞いて、声に出して読んで書く練習を増やした。

検証1

⇒ 内容を理解した上で行っていくので1つ1つの活動が確実だったと思う。音読をチェックし、CDで本文を聞いて空欄を埋め、音読筆写で書いていくという流れが生徒自身も手応えを実感しながら進められたのでよかった。特に音読筆写は繰り返すうちに英文の語順の間違いが減ってきたのが分かった。ワークブックも短時間で正確にできるようになった。

仮説2

⇒ 簡単な洋書をたくさん読んで自信をつけていけば、英語に対する抵抗感もなくなり力もついていくのではないかな。

実践2

⇒ 生徒全員が同じレベルで始められるように1ページにつき1文程度の簡単な書物から始めた。慣れるまでは全員で同じものを読んだ。4、5話読んだところで自由読書の時間を取った。「1万語をめざそう！」を合い言葉に読書記録をつけながら楽しみながらできるように心がけた。多読を授業で行う場合は、最初10分から15分程度をあてた。生徒が上達を実感できるように時々、読みの速さ(分速)を計り力を試した。

検証2

⇒ 生徒全員が多読を楽しんだ。本自体に生徒を引き込む魅力があった。「読めた！」という自信がまた読んでみたいというやる気につながった。読みの速さも全体が速くなり、1分間に80語程度だった生徒も100語を越えるようになった。最終的には全員の生徒が分速100語以上になった。英語検定4級で英語力の伸びを見ると読解、リスニングで20%、作文で40%正解率が上昇した。

仮説3

⇒ シャドーイングで聴く力やアウトプットの練習になり、多読と併せて相乗効果を生むのではないかな。

実践3

⇒ 最初は日本語でシャドーイングの練習を始めた。英語が苦手な生徒も得意な生徒も一緒になって取り組めるように中1の教科書から題材を選んだ。

検証3

⇒ スポーツ感覚でシャドーイングをやっているように見受けられた。英語が苦手な生徒も一生懸命ペアの生徒が話している英語を聞いていた。また役割を交代して話す側にまわった時も、速く正確に話すことを心がけていた。楽しい中にも緊張感があった。相手の英語を意識して聴くため、不自然なイントネーションがあった時は注意し合う場面も見られた。ペアでの学習はお互いに指摘し合えるため、生徒自身が課題を見つけるにも役だった。

研究の成果

英語を読むのが苦痛になっていた生徒も多読への取り組みを通して「読めた！」という体験を重ねていくことで自信とやる気を回復して学習に臨めるようになったのは成果であった。学級全体が多読に対して意欲を持って取り組んだ姿勢が効果を上げ、読むのも速くなり抵抗も減ってきた。これまで文法事項がなかなか定着しないことも課題の1つであったが、音読筆写は続けて良かった。単語、文法が以前より定着しやすくなった。

今後の授業改善の課題

英語の基礎を鍛える学習(音読、多読、音読筆写、シャドーイングなど)をこれからも継続しつつ、コミュニケーションな授業の創造に取り組みたい。タスクを与えコミュニケーションへ力を活かして解決していく力をともに学んでいきたい。そして、単語は最も大事な基本なので楽しく定着できる方法を考えていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0889-22-0443